

北八ヶ岳(蓼科山) 山行記録 2006.6.10-11

八ヶ岳は、交通の便もよく、ルートのバリエーションも豊富で、よく整備された環境である。その中から今回、蓼科山を選んだのは、私がまだ未登頂の山であることも理由に挙げられるが、ここ最近ヤル気ばっちりのさおりさんと、山に目覚めて装備も充実してきた高野くん、**お手頃で森林限界を越えた岩山の世界を見せたーい!!** という想いもあったからだ。

しかし当日、正直もう少し余裕を持って歩けるだろうと想定していたルートだったが、実際はほとんど気を抜けなかった(特に、あの大岳付近…、事前の調査不足でした、反省……) それでも、みな最後まで歩き通せて本当によかったし、さらによく言えば、二人には山の様々な面を知ってもらえたかな、とも思う。岩場歩きに山での自炊、暑さに苦しんだテント泊…。でも、これはさおりさんと高野くんだったからよかったんだよね。体力も好奇心もチャレンジ精神もあって、そして何より**山を好きになってくれた人たち**だから。

私も何十回と山には行ってきたが、毎回冒険家になった気分で、次にどんなシーンが待っているのか、ドキドキしながら歩いている。突然視界が開けた瞬間とか、そこに雲海が浮かんでいるとか、些細なことかもしれないけれど、昔からそこに変わらずにあるものに、単純に感動してしまう…。だからまた山に行くんだらうな。

- ★高野くん：登山靴が合わなかったことだけが残念だったけど、持ち前の気力と体力とユーモアで乗り切ってくれてありがとう。いろいろと話せて楽しかったです。
- ★さおりさん：事前の手配や、食料全般、いつもありがとう。岩場も体験できたことで、穂高もイメージできたかな。次回は晴れた山に行きましょう。(目指せ、晴れ女!!)

今回は中身の濃いコースを踏破できたが、唯一の心残りは、山でのんびりすることを忘れてしまったこと!? やっぱり天気の良い山で、思う存分まったりしたい。というわけで、皆様もこれに懲りずに次なるピークを制覇しましょう。(&下界でもよろしく!!)

2006.6.13

石川暁崇

以下、ルート概況をまとめてみました。(行動時間の記録は、二人に任せた!!)

【6月10日(土)】

麦草峠から茶臼岳までは、整備された登山道だが、ゆるやかな登りからだんだん急登となるので、登り始めの体には少しこたえる…。それを登りきった先に山頂があるが、木々に囲まれ茶臼岳山頂の立札があるだけ。しかし、そこから数分歩けば「天望台」、南の空には南八ヶ岳が望めた。(おそらく晴れていれば、中央アルプス、北アルプスも望めるに違いない。残念…。)

茶臼岳から縞枯山。縞枯山という名は、この山には生い茂る木と枯れ始める木が交互にあり、縞模様に見える

ことに由来するそうだが、枯れた山は、見上げれば空が近くに思える一方、殺伐とした雰囲気だともいえた。縞枯山山頂に展望はないが、明るい山だった。

縞枯山から雨池峠まで下り山頂駅への道を曲がると、木道が展開する。ここの一帯はロープウェイを利用した観光客が気軽に足を運べる場所である。山頂駅付近の『坪庭』は、まさに高山植物の庭園。この坪庭を通過する途中で北横岳への分岐が現れる。北横岳へのルートも比較的歩きやすく整備され、三ツ岳からのルートと合流すれば、北横岳ヒュッテまではすぐである。(このヒュッテで売られていたオリジナルバンダナは、なかなかかわいかった。) またヒュッテから数分の七ツ池は、森に囲まれた小さな池だが、なかなか静かで穴場的なよさがあった。ヒュッテから北横岳までは急登で、今回初めて残雪も見したが、ひと踏ん張りすれば、山頂にたどり着ける。

北横岳。正確には南峰と北峰がある。まず初めに現れるのが南峰だが特に目印もなく、そのすぐ先に北峰が待っている。こちらには北横岳の立札もあるので、北横岳といえば北峰を指すようである。(我々は南峰を山頂だと思い込んでのんびりしていたので、北峰に行ってびっくり…) 明日歩く予定の双子山～蓼科山までのルートが雄大に見えた。

北横岳から双子池までは、亀甲池経由と大岳経由があるが、前者は残雪が多く残っているときいていたので、我々は後者を選ぶ。しかし、このルートに足跡は残されていたが、あまり人が立ち入っていない様子。稜線上を気持ちよく歩けるかと思いきや、稜線は岩場の連続。コースは一部荒廃。大岳を過ぎ、森の中に入れば急な下りが続き、そしてまた岩場が現れ、の繰り返し。ずっと原生林の中を歩き続ける亀甲池経由に比べれば、景色だけはよかったといえるが、時間に余裕を見たほうがよさそうでもある。

ようやくたどり着いた双子池は、飲料可能とされるきれいな池。キャンプ場は池のほとりで、一張りごとのスペースが確保され、とても静かだった。

【6月11日(日)】

双子池から双子山までは緩やかな登りが続き、突然視界が開けた先にある双子山は、荒野のような山頂だった。晴れていれば展望は抜群だろうが、本日はあいにくの曇り空。それでもこれから目指す蓼科山は雲に隠れながらも大きく見えた。そして大河原峠へと下る。

大河原峠からは、しばらく原生林の中を歩くルートが続く。部分的に急登もあり、平坦なルートが現れれば幾分明るくはなるが、そこからもしばらく歩いて、ようやく前掛山への分岐点となる。そして、そこも早々に通過すれば、休憩ポイントとなる蓼科山荘。ここから七合目ゴンドラに下りることができるので、蓼科山だけを目指す場合は、このゴンドラの利用が便利である。

山荘から蓼科山までは、急登の連続。森林限界を越えると岩場となり、残雪も残っていた。岩場の目印を追って歩けば、山頂小屋にたどり着き、そこから何一つ壁になるものはない岩山を登れば山頂に到着。ここが北八ヶ岳の最高峰(2,530m)。昨日のタクシーの運転手に、蓼科山は「諏訪富士」との別称を持っていると聞いていたが、まさに富士山のように、山頂は360度遮るものがない独立峰だった。(しかし、天候の悪いこの日は、視界は360度真っ白で、ただただ風が強かった。)

山頂から登山口までの下山は、またもや急登が続いている。岩場は目印がはっきりしており、迷うことはないが、岩の段差もあり、スピードは出せない。岩場を過ぎても、地面はゴツゴツとした急な下りルートのため、滑りやすいし足への負担もかかる。2120m地点に立札があり(登山口までの中間点と思われる)、その先も気がめいるほどの急登が続き、登山口の手前でようやく傾斜が緩やかになる。お疲れ様でした。